ISSN 2189-4787

浦幌町立博物館

紀要

第19号

『浦幌町郷土博物館報告』創刊号～第45号
（1972～1996）継続

BULLETIN OF THE HISTORICAL MUSEUM OF URAHORO

目　　次

荒　川　和　子：浦幌町立博物館所蔵の2018年度収蔵の蝶標本 …… 1

木下茂・持田誠：厚内神社史 …… 9

〔採集記録・観察記録〕

持田誠・池田守・池田順子：北海道十勝地方からマルミノウルシを記録する …… 13

持　田　　誠：豊北海岸における外来種ブタクサの記録 …… 17

〔資料紹介〕

三浦直春・大和田努　解読：大正十五年・昭和元年　教育雑件　浦幌村役場（その4）… 21

2019
3

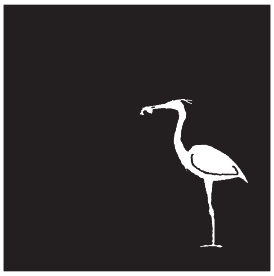
北　海　道
浦　幌　町　立　博　物　館

ISSN 2189-4787

浦幌町立博物館

紀要

第19号



『浦幌町郷土博物館報告』創刊号～第45号
（1972～1996）継続

BULLETIN OF THE HISTORICAL MUSEUM OF URAHORO

2019
3

北海道
浦幌町立博物館

浦幌町立博物館所蔵の 2018 年度採集の蝶標本

荒川 和子 [1)]

Kazuko Arakawa, 2019. Butterfly 2018 collection of The Hisotorical Museum of Urahoro.
Bulletin of the Historical Museum of Urahoro, 19: 1-7.

整理番号	受入番号	点数	計測値	採集地	採集年月日	採集者
アゲハチョウ科　Papilionidae						
カラスアゲハ　*Papilio dehaanii* C.&R FELDER, 1864						
1530	2019- 10	2	87～89	北海道十勝郡浦幌町森林公園	2018.5.29	荒川和子
ミヤマカラスアゲハ　*Papilio maackii* MÉNÉTRIÈS, 1858						
1531	2019- 11	2	87～92	北海道十勝郡浦幌町森林公園	2018.6. 5	荒川和子
1532	2019- 12	1	85	北海道十勝郡浦幌町南町	2018.6.24	荒川和子
キアゲハ　*Papilio machaon* LINNAEUS, 1758						
1533	2019- 13	1	82	北海道十勝郡浦幌町森林公園	2018.5.26	山本昊河
1534	2019- 14	2	73～76	北海道十勝郡浦幌町森林公園	2018.6. 5	荒川和子
1535	2019- 15	1	76	北海道十勝郡浦幌町平和塔	2018.8. 1	荒川和子
シロチョウ科　Pieridae						
モンキチョウ　*Colias erate* (ESPER, 1805)						
1536	2019- 1	1	46	北海道十勝郡浦幌町森林公園	2018.7.16	荒川和子
エゾスジグロシロチョウ　*Pieris dulcinea* (BUTLER, 1882)						
1537	2019- 2	1	40	北海道十勝郡浦幌町森林公園	2018.4.29	荒川和子
1538	2019- 3	2	38～41	北海道十勝郡浦幌町森林公園	2018.5.26	山本昊河
1539	2019- 4	1	41	北海道十勝郡浦幌町南町	2018.7.25	荒川和子
1540	2019- 5	1	44	北海道十勝郡浦幌町森林公園	2018.7.29	荒川和子
1541	2019- 6	2	45	北海道十勝郡浦幌町南町	2018.8.12	干場竣月
1542	2019- 7	3	45～50	北海道十勝郡浦幌町南町	2018.8.12	佐藤　蓮
スジグロシロチョウ　*Pieris melete* (MÉNÉTRIÈS, 1857)						
1543	2019- 8	1	46	北海道十勝郡浦幌町森林公園	2018.7.29	荒川和子
エゾシロチョウ　*Apoeia crataegi* (LINNAEUS, 1758)						
1544	2019- 9	4	54～67	北海道十勝郡浦幌町南町	2018.6.24	荒川和子
セセリチョウ科　Hesperiidae						
コチャバネセセリ　*Thoressa vaeia* (MURRAY, 1875)						
1545	2019- 16	3	27～30	北海道十勝郡浦幌町森林公園	2018.7.16	荒川和子
コキマダラセセリ　*Ochlodes venatua* (BREMER & GREY, 1852)						
1546	2019- 18	1	26	北海道十勝郡浦幌町万年	2018.7.24	荒川和子
1547	2019- 19	2	28～34	北海道十勝郡浦幌町常豊信号所	2018.7.29	荒川和子
イチモンジセセリ　*Parnara guttata* (BREMER & GREY, 1852)						
1548	2019- 17	2	30～32	北海道十勝郡浦幌町森林公園	2018.7.16	荒川和子
タテハチョウ科　Nymphalidac						
ミドリヒョウモン　*Argynnis paphia* (LINNAEUS, 1758)						
1549	2019- 25	1	59	北海道十勝郡浦幌町森林公園	2018.9. 2	荒川和子
1550	2019- 26	1	56	北海道十勝郡浦幌町平和塔	2018.9. 2	荒川和子
シータテハ　*Polygonia c-album* (LINNAEUS, 1758)						

1) 〒 089-5617　北海道十勝郡浦幌町字南町

整理番号	受入番号	点数	計測値	採集地	採集年月日	採集者
1551	2019- 20	2	40～43	北海道十勝郡浦幌町常豊信号所	2018.7.24	荒川和子
1552	2019- 21	2	42～43	北海道十勝郡浦幌町森林公園	2018.8. 1	荒川和子
エルタテハ　*Nymphalis l-album*　(ESPER, 1780)						
1553	2019- 22	1	46	北海道十勝郡浦幌町森林公園	2018.4.26	荒川和子
1554	2019- 23	1	55	北海道十勝郡浦幌町南町	2018.7.24	荒川和子
1555	2019- 24	1	56	北海道十勝郡浦幌町平和塔	2018.7.29	荒川和子
クジャクチョウ　*Inachis io*　(LINNAEUS, 1758)						
1556	2019- 27	1	60	北海道十勝郡浦幌町森林公園	2018.4.22	荒川和子
1557	2019- 28	1	47	北海道十勝郡浦幌町南町	2018.7.17	荒川和子
1558	2019- 29	1	52	北海道十勝郡浦幌町森林公園	2018.8. 1	荒川和子
1559	2019- 30	1	60	北海道十勝郡浦幌町南町	2018.10.5	荒川和子
アカマダラ　*Araschnia levana*　LINNAEUS						
1560	2019- 31	1	26	北海道十勝郡浦幌町南町	2018.4.21	荒川和子
1561	2019- 32	1	30	北海道十勝郡浦幌町南町	2018.4.22	荒川和子
サカハチチョウ　*Araschnia burejana*　BREMER,1861						
1562	2019- 33	1	35	北海道十勝郡浦幌町東山	2018.5.29	荒川和子
1563	2019- 34	1	33	北海道十勝郡浦幌町森林公園	2018.6. 5	荒川和子
1564	2019- 35	1	36	北海道十勝郡浦幌町常豊信号所	2018.7.24	荒川和子
1565	2019- 36	1	38	北海道十勝郡浦幌町森林公園	2018.8. 1	荒川和子
フタスジチョウ　*Meptis rivularis*　(SCOPOLI, 1763)						
1566	2019- 37	1	35	北海道十勝郡浦幌町森林公園	2018.7.16	荒川和子
1567	2019- 38	1	46	北海道十勝郡浦幌町森林公園	2018.7.29	荒川和子
コムラサキ　*Apatura metis*　FREYER, 1829						
1568	2019- 46	1	62	北海道十勝郡浦幌町常豊信号所	2018.7.24	荒川和子
ヤマキマダラヒカゲ　*Neope niphonica*　BUTIER, 1881						
1569	2019- 39	1	59	北海道十勝郡浦幌町留真	2018.6.10	荒川和子
サトキマダラヒカゲ　*Neope goschkevitschii*　(MENETRIES, 1857)						
1570	2019- 40	1	61	北海道十勝郡浦幌町森林公園	2018.5.29	荒川和子
1571	2019- 41	1	63	北海道十勝郡浦幌町森林公園	2018.6. 5	荒川和子
1572	2019- 42	1	57	北海道十勝郡浦幌町留真	2018.6.10	荒川和子
1573	2019- 43	1	61	北海道十勝郡浦幌町南町	2018.7.11	荒川和子
1574	2019- 44	1	65	北海道十勝郡浦幌町南町	2018.7.17	荒川和子
1575	2019- 45	1	59	北海道十勝郡浦幌町常豊信号所	2018.7.24	荒川和子
クロヒカゲ　*Lethe diana*　(BUTLER, 1866)						
1576	2019- 49	1	43	北海道十勝郡浦幌町南町	2018.7. 9	荒川和子
1577	2019- 50	1	45	北海道十勝郡浦幌町森林公園	2018.7.16	荒川和子
1578	2019- 51	1	45	北海道十勝郡浦幌町平和塔	2018.7.29	荒川和子
ヒメウラナミジャノメ　*Ypthima argus*　BUTLER, 1866						
1579	2019- 56	2	34～38	北海道十勝郡浦幌町森林公園	2018.7.16	荒川和子
1580	2019- 57	1	36	北海道十勝郡浦幌町南町	2018.7.24	荒川和子
1581	2019- 58	1	39	北海道十勝郡浦幌町南町	2018.7.29	荒川和子
1582	2019- 59	1	35	北海道十勝郡浦幌町森林公園	2018.7.29	荒川和子
オオヒカゲ　*Ninguta schrenckii*　(MÉNÉTRIÈS, 1858)						
1583	2019- 47	1	68	北海道十勝郡浦幌町帯富	2018.7.24	荒川和子
1584	2019- 48	1	67	北海道十勝郡浦幌町平和塔	2018.7.29	荒川和子
ジャノメチョウ　*Minois dryas*　(SCOPOLI,1763)						
1585	2019- 52	2	52～59	北海道十勝郡浦幌常豊	2018.4.22	荒川和子
1586	2019- 53	1	59	北海道十勝郡浦幌町万年	2018.7.29	荒川和子
1587	2019- 54	1	52	北海道十勝郡浦幌町南町	2018.8. 2	荒川和子

整理番号	受入番号	点数	計測値	採集地	採集年月日	採集者
1588	2019- 55	1	59	北海道十勝郡浦幌町平和塔	2018.9. 2	荒川和子
シジミチョウ科　Lycaenidae						
ミドリシジミ　*Neozephyrus japonicus*　(MURRAY, 1875)						
1589	2019- 66	1	35	北海道十勝郡浦幌町森林公園	2018.7.29	荒川和子
カラスシジミ　*Neozephyrus japonicus*　(MURRAY, 1875)						
1590	2019- 63	1	29	北海道十勝郡浦幌町森林公園	2018.7.24	荒川和子
コツバメ　*Callophrys ferrea*　(BUTLER, 1866)						
1591	2019- 60	3	24～25	北海道十勝郡浦幌町森林公園	2018.4.21	荒川和子
1592	2019- 61	1	22	北海道十勝郡浦幌町森林公園	2018.4.29	荒川和子
ツバメシジミ　*Everes argiades*　(PALLAS, 1771)						
1593	2019- 62	1	22	北海道十勝郡浦幌町森林公園	2018.5.29	荒川和子
ベニシジミ　*Lycaena phlaeas*　(LINNAEUS, 1761)						
1594	2019- 67	1	30	北海道十勝郡浦幌町常豊	2018.6. 5	荒川和子
ルリシジミ　*Celastrina argiolus*　(LINNAEUS, 1758)						
1595	2019- 64	1	26	北海道十勝郡浦幌町森林公園	2018.4.22	荒川和子
1596	2019- 65	1	25	北海道十勝郡浦幌町常豊信号所	2018.7.24	荒川和子

参　考　文　献

志村　隆. 2007. 日本産蝶類標準図鑑. 336pp. 学習研究社, 東京.
堀　繁久・桜井正俊. 2015. 昆虫図鑑北海道の蝶と蛾. 422pp. 北海道新聞社, 札幌.

カラスアゲハ

ミヤマカラスアゲハ

キアゲハ

モンキチョウ

エゾスジグロシロチョウ

スジグロシロチョウ

エゾシロチョウ

コチャバネセセリ

コキマダラセセリ

イチモンジセセリ

ミドリヒョウモン

シータテハ

エルタテハ

クジャクチョウ

アカマダラ

サカハチチョウ

フタスジチョウ

コムラサキ

ヤマキマダラヒカゲ

サトキマダラヒカゲ

クロヒカゲ

オオヒカゲ

ジャノメチョウ

ヒメウラナミジャノメ

ミドリシジミ

カラスシジミ

コツバメ

ツバメシジミ

ルリシジミ

厚内神社史

木下　茂[1)]・持田　誠[2)]

Shigeru KINOSHITA and Makoto MOCHIDA, 2019. The History of Atsunai Shrines.
Bulletin of the Historical Museum of Urahoro, 19: 9-11.

「厚内神社史」の経緯について

浦幌町の厚内で、地域の歴史を調査されていた木下茂氏は、2018 年に逝去された。博物館では、生前に木下氏より、厚内神社の歴史に関する原稿「厚内神社史」をお預かりしており、併せて厚内地区の歴史について、ご本人から聞き取り（仮調査）をしている最中でのことであった。その博識さ、地域の歴史に対する思いの強さに感銘を受け、本格的な聞き取り調査をしたいと考えていたところでのご逝去は、甚だ残念でならない。

本稿は、1992（平成 4）年の厚内神社例祭に際して寄せられたもので、「厚内神社の推移に寄せて」という標題で、現在も厚内神社拝殿に、額装の上掲げられているものである。「厚内神社の推移に寄せて」は、厚内神社と厚内地区の沿革に関する、貴重な証言であり、浦幌の地域史にとって重要な資料となることから、ぜひ活字化して出版したいと博物館から申し上げ、その原稿をお寄せいただいたものであった。

現在、厚内神社は、対外的には斎藤兵太郎が京都伏見稲荷から分霊した稲荷神社を創始としているようである。しかし、木下氏の記述にあるように、もともと厚内地区には「山の神社」と呼ばれる川渕勝太郎による社があったとされる。また、斎藤氏が稲荷神社を厚内に建てた時期についても、木下氏の記述と『浦幌町百年史』などの記述とは違いがみられる。木下氏は、町史における神社の沿革の記述内容や、川渕の「山の神社」の存在が忘れられつつあることを非常に気にかけておられ、そうした思いからも本稿の出版を快く諒解いただいていた。

しかしながら、ご生前のうちにお預かりした原稿を出版できなかった事は、博物館として大きな責任を感じているところである。

また、当初の予定では、本稿を叩き台として、木下氏との議論のなかから生じた新しい事実や疑問点などについて、さらに本文を追加をした上で、新たに紀要原稿として掲載するはずであった。しかし、それが叶わなくなってしまったため、文責に原稿をお預かりした持田を加えた上で、修正を基本的な誤字・脱字の訂正のみにとどめ、参考写真を付した上で掲載することとした。本稿の内容について疑義がある場合は、その責は持田に所在するので、あらかじめ御了承いただきたい。

また、本文中に掲載した 1955 年の厚内神社の写真は、浦幌神社所蔵の写真をお借りした。原稿の入力にあたっては、厚内公民館の前出彰子氏に尽力いただいた。ご協力に感謝したい。

木下氏のみ霊の天上でのご平安を心よりお祈りし、本誌を捧げる。

（浦幌町立博物館学芸員　持田誠）

厚内神社の推移に寄せて

波高き太平洋を望み大木が繁茂する原始林この自然条件の厳しさの中、幕末のころより探検者の多かった昆布刈石や厚内海岸でしたが、明治三十年ごろより、厚内の地にも開拓の鍬が振り下ろされました。

日高の幌泉村より菅原重助氏が移住し、厚内にて駅逓を設営したのも明治三十年であり、厚内にも徐々に人が住み始めた明治三十二年石川県能登より川渕勝太郎氏が大津を経て移住、その後大津からの移住者によって農業、林業、漁業等が営まれたのです。川渕氏は船大工として漁業の振興に寄与された一人です。

明治三十四年ころより、鉄道建設が進み厚内にも活

1) ＊故人〒 089-5865 北海道浦幌町厚内（2018 年逝去）
2) 浦幌町立博物館　〒 089-5614　北海道十勝郡浦幌町字桜町 16

図1　1955（昭和30）年10月15日、厚内神社新築落成記念で撮影された写真。（浦幌神社所蔵）

気が増し又、翌三十五年は日本中が日清戦争後の戦勝ムードに酔いしれて活気に溢れていました。厚内では鉄道の枕木製造や造船の船材等は、今村浅次郎を頭に厚内川を堰き止め、流送で大量の木材を搬出したのです。

この景気を機に、厚内の住人の数も増え始め、荒い仕事の作業安全、家族の家内安全等を願うためにも神社を建てたいと、川渕勝太郎氏の胸に湧く思いは、即実行に移され、川渕家の私有地に厚内の鎮守様として、厚内二十三番地の小高い山の上に社殿を建てて「天照皇大神」様を奉斎したのです。天照皇大神様とは「太陽神」であり、朝に昇り、夕に没して万物の命に恵みを与えくださる日本の最高神として、また、皇室の親神様でもあり、日本の守護神として、各村々にも鎮守の社が建設されたのです。

当時は「山の神社」と呼ばれ、例祭として春は四月三日、秋は九月四日に定めて厚内の市街地からも多数参拝者が訪れるようになりました。また厚内にも鉄道の開通とともに、明治四十六年には、斎藤家、大津家、水沢家など、大津村より移住し、漁業従事者の人口も増え、市街地にも神社の造営が叫ばれるようになりました。

大津蔵之助、斎藤兵太郎、川渕勝太郎、水澤竹次郎、菅原重助の各氏が中心となり、大正六年十月十八日「伏見稲荷神社」が厚内の原野、厚内一九四番地の町有地に造営されたのです。

稲荷神社とは、古来から五穀豊穣と商売繁盛の神様として奉られておりまして、例祭は宵宮九月一七日、本祭は九月一八日としてにぎわいました。又、いつの年も大晦日から元旦にかけては、灯明がともされてきたのです。「山の神社」も昭和五年九月に、厚内十九番地の三「現在の木下家所有地」に移転改築、次いで、「山の神社」と「稲荷神社」の合祀は、戦時中の昭和十八年九月厚内全域の守護神として合祀、社名も「厚内神社」と改名されたのです。

その後、厚内神社も四十年の歳月が経ち、老朽化に伴い厚内神社建設委員会が設立され、川島信二氏を委員長とし、大阪（坂）岩吉、斎藤辰三郎、前川久治、水沢慶一、中村重次氏達が中心となり地域の氏子の方々の協力を得て、昭和三十年十月十三日に現在地チプネオコッペ一の二十番地（当時松川家所有地）に新築移転を見たのです。昭和四十年六月十三日に、松川

図 2　現在の厚内神社（2015 年 6 月浦幌町立博物館撮影）

拓之氏より境内地の 1,075 平方メートルを寄進していただきました。

例祭日は九月十七、十八日と続きましたが、鮭漁の時期と重なり、氏子達（特に男子）が地元を離れる前にとの多数の希望により、昭和五十三年から五十八年まで七月又は八月と各々実施しました。しかし、度々例祭が変わるのも好ましくないということから、昭和五十九年より宵宮祭六月十四日、本祭十五日と決定し、現在に至っております。

厚内の最初の開拓者によって作られた、小さなお社から幾度かの変遷を重ね、平成四年九月には、創祀九十年を数えることになりました。いずれの時代にも、我々地域住民の敬神の念で灯をともし、厚くお守りして来た神社であります。

ここに、九十年の歴史を持つ「厚内神社」の、明治、大正、昭和、平成の数々の部分を重ねて記し、心をこめて奉納致します。

平成四年六月十五日（例祭日）

厚内一区　　木下　茂

図 3　厚内神社に掲げられている絵馬。製作年・製作者は不明。1909（明治 42）年 4 月 3 日に川渕勝太郎が奉納している。現在、確認されている浦幌町内に残る寺社所蔵絵馬のなかでは、もっとも古いものである。
（39.5cm × 57.0cm 厚さ 2cm ／板絵墨画）
（2017 年 11 月浦幌町立博物館撮影）

追　　記

神社の記録が無く、私の記憶と、多くの長老、諸先輩各位にお尋ねして記した次第です。誤りがありましたらご指導賜ります様お願い申し上げます。

北海道十勝地方からマルミノウルシを記録する

持田　誠[1)]・池田　守[2)]・池田順子[2)]

Makoto MOCHIDA, Mamoru IKEDA & Junko IKEDA, 2019. New Record of *Euphorbia ebracteolata* (Euphorbiaceae) in Tokachi Region, Hokkaido.
Bulletin of the Historical Museum of Urahoro, 19: 13-15.

摘　要

十勝地方の豊頃町で、トウダイグサ科のマルミノウルシの自生を確認した。本種は北海道では胆振・日高および石狩地方から分布が知られているほか、北見地方からも記録がある。しかし、十勝地方など道東での分布は知られていない。本種の新産地として報告する。

マルミノウルシ

マルミノウルシ *Euphorbia ebracteolata* Hayata は、トウダイグサ科トウダイグサ属の多年生草本である。肥大する根茎を持ち、秋季に越冬芽を形成して、早春に地上茎（シュート）を伸長して、杯状花序により開花・結実する。果実は乾燥すると裂開して種子をはじき飛ばすほか、地上に落ちた種子はエライオソームによる昆虫散布をおこなう。シュートは、初夏には融けるように消失することから、春植物の一種と考えられている。

マルミノウルシの分布は、日本、中国中部、朝鮮半島とされる。このうち日本での分布は北海道、東北地方と中部地方が中心だが、三重県藤原岳の石灰岩地帯、香川県屋島は、他の自生地からかなり離れた地点にある隔離分布で知られている（吉田 2004、黒沢 2016）。

北海道内では、これまで道央圏の胆振、日高および石狩地方での自生地が記録されている。滝田（2001）は「北海道の自生地は少ない」と記しているが、これは分布域が限られている事を示しており、分布域内では比較的高密度に自生していることから、黒沢（2016）は「北海道には比較的多い」と述べている。

道内の分布で特筆すべきは、飛び地的に北見地方の置戸町で記録があることである。北海道大学総合博物館や北網圏北見文化センターに標本が収蔵されている。しかし現在、この自生地は消失しており、このほかに日高山脈の東部での自生地は知られていなかったことから、本種の日本における現状分布は、石狩低地帯および日高山脈西部一帯が北限産地とされてきた。

図 1　マルミノウルシ *Euphorbia ebracteolata* Hayata。今回みつかった豊頃町の自生地にて、2018 年 5 月 1 日に撮影。

今回、十勝地方の豊頃町から分布が自生が確認されたことから、かつて記録のある置戸町までの間、具体的には日高山脈東部から白糠丘陵にかけて、ほかにも自生地が存在する可能性も考えられる。

なお、このように、分布域が偏在している傾向にあることから、環境省のレッドデータリスト 2018 では

1) 浦幌町立博物館　〒 089-5614　北海道十勝郡浦幌町字桜町 16
2) 〒 089-5309　北海道中川郡豊頃町字二宮

図 2　マルミノウルシ *Euphorbia ebracteolata* Hayata の自生が新たに確認された北海道中川郡豊頃町の位置。

図 3　豊頃町からみつかったマルミノウルシ *Euphorbia ebracteolata* Hayata 自生地の様子。丘陵地斜面の下部で、落葉広葉樹二次林の林床から林縁にかけて個体群が広がる。開花期の 4 月下旬から 5 月上旬は、まだ他の草本が芽出しの時期で、ササ類の密度も低いため、マルミノルウシの純群落にみえる。写真は 5 月 1 日の様子で、マルミノウルシが結実をしはじめている一方、他種の伸長・展葉が急速に進んでいる。

準絶滅危惧種（NT）に指定されているのに対し、地域版レッドリストでは各地域の分布状況に応じて、北海道、青森県、宮城県、岩手県が絶滅危惧 II 類、福島県、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、東京都、長野県、三重県が絶滅危惧 I 類、滋賀県が「分布上重要な種」に指定している。

このように、本種は絶滅危惧種として自生地情報の取扱に注意を要するため、本稿では自生地の位置について詳細を記載しなかった。

新産地の状況

今回確認された自生地は、十勝地方の十勝川下流部右岸に位置する、中川郡豊頃町の山林である（図 1）。地理的には豊頃丘陵に属する丘陵地帯で、一帯は道有林および社有林として管理されている。

マルミノウルシは、丘陵地斜面下部の林縁域に集中して自生している。これは、丘陵地の斜面上方は針葉樹植林地として開発されているためで、植林を逃れた斜面下部の落葉広葉樹林にマルミノウルシ個体群が残存しているものと推察される。自生地の標高は、およそ 70-200m の範囲に広がる。

開花期は 4 月下旬から 5 月上旬で、5 月中旬には結実する。シュート長は開花最盛期で 30-50cm 程度の個体が多い。分布の範囲は広く、一帯の約 5km 四方の範囲に、不連続に集団が分布していた。

本種が多く自生する日高地方・胆振地方の自生地には、かつて馬の林間放牧が盛んに実施されており、その影響で林床のササ類の密度が低く抑制されている場所がある（高橋・佐藤 2001）。豊頃町の自生地もマルミノウルシ集団の周辺はササ密度が低いことから、放牧などかつての土地利用の状況について確認する必要がある。

2018 年 4 月に共著者の池田がトウダイグサ科の草本が自生していることを発見し、マルミノウルシではないかと推察して博物館へ連絡。その後、博物館で現地を調査して同定と標本採集を実施した。その後、主要な土地管理者である北海道十勝総合振興局森林室に本種の自生情報について提供した。

採集標本は、浦幌町立博物館収蔵庫（**URAH**）に収蔵する。重複標本を北海道大学総合博物館陸上植物標本庫（**SAPS**）と福島大学標本庫（**FKSE**）に収蔵する。

本種の道内における自生状況について、若原正博氏、さっぽろ自然調査館の丹羽真一氏、福島大学の黒沢高秀氏に情報提供を頂いた。深く感謝したい。

証拠標本

マルミノウルシ *Euphorbia ebracteolata* Hayata
#MOCHIDA 2018-0001：北海道中川郡豊頃町．採集年月日：2018 年 5 月 1 日．採集者：持田誠．Japan,Hokkaido; Nakagawa-gun, Toyokoro-cho.

May.1,2018. Coll.: Makoto MOCHIDA ／ *#MOCHIDA 2018-0002*：北海道中川郡豊頃町．採集年月日：2018年5月1日．採集者：持田誠．Japan,Hokkaido; Nakagawa-gun, Toyokoro-cho． May.1,2018. Coll.: Makoto MOCHIDA.

引用文献

吉田繁，2004．岩手県におけるマルミノウルシの新産地．分類 **4**(1): 75-76.

高橋英樹・佐藤利幸，2001．北海道大学農学部附属牧場の維管束植物相．北海道大学農学部牧場研究報告 (18), 33-122.

滝田謙譲，2001．北海道植物図譜 , 529．自費出版．

黒沢高秀，2016．トウダイグサ科．大橋広好ほか編，『日本の野生植物』3，147-166．平凡社，東京．

豊北海岸における外来種ブタクサの記録

持田　誠 [1)]

Makoto MOCHIDA, 2019. New Record of *Ambrosia artemisiifolia* L. (Asteraceae) naturalized in Toyokita Coast, Hokkaido.
Bulletin of the Historical Museum of Urahoro, 19: 17-20.

摘　要

豊頃町から浦幌町に跨がる豊北海岸において、キク科ブタクサ属の外来種ブタクサ *Ambrosia artemisiifolia* L. を採集した。本種は北海道ブルーリスト（北海道外来種データベース）に掲載されている外来植物だが、豊北海岸での確認事例は無かったので記録しておく。

採集個体の特徴

2018 年 9 月 1 日に、浦幌町立博物館で開催している月例調査観察会「豊北植物調査会」において、参加者の大本眞理子氏が豊北海岸の豊頃町側で見慣れない植物を確認した。豊北植物調査会は毎月 1 回、豊北海岸の同じルートで植物のフェノロジーを記録するもので、通常は目視観察だが、新産植物は採集し、浦幌町立博物館へ腊葉標本として収納することにしている。現地の観察ではキク科のブタクサ *A. artemisiifolia* L. と判断され、これまでに豊北海岸からの記録が無いことから、確認個体を採集して博物館へ持ち帰り、標本を作製した（図 1、*#MOCHIDA 2018-0003*）。

採集個体はシュート長が約 50cm で、多数の頭花が 1 個ずつ穂状に密集している。標本をあらためて検討したところ、①花序の柄や茎、葉裏に白色の軟毛がある、②茎葉は全体に互生で、1 ～ 2 回羽状に深裂している、という特徴が顕著に認められた。

ブタクサは、下部の茎葉は対生で、上部は互生になることが知られている（神奈川県植物誌調査会 2018）。また、ブタクサの茎葉は一般に 2 ～ 3 回羽状に深裂する（滝田 2001）。

また、ブタクサの雄性頭花の外面には硬い短毛が散生するか無毛であるとされているが（門田ほか 2017）、本個体では無毛もしくは短軟毛が散生している。

図 1　豊北海岸で採集されたブタクサの標本。2018 年 9 月 1 日採集。*#MOCHIDA 2018-0003* **(URAH)**

ブタクサに近縁の植物としては、ブタクサモドキ *A. psilostachya* DC. と、別属のオオブタクサ *Ambrosia trifida* L. が知られている。オオブタクサは全ての茎葉が対生（門田ほか 2017）とされることから、ブタクサかブタクサモドキの可能性があると判断し、本種の種名について検討した。

ブタクサモドキは、ブタクサと同じブタクサ属に分

1) 浦幌町立博物館　〒 089-5614　北海道十勝郡浦幌町字桜町 16

図 2　ほぼ 1 回羽状深裂の葉しか持たない鵡川町汐見産のブタクサ標本。*#K.Oita 01-6683* (**SAPS**)

図 3　門別町富川で採集された現在道内産唯一と考えられるブタクサモドキの標本。*K.Oita 00-6196* (**SAPS**)

類されるキク科草本だが、ブタクサが一年草なのに対して地下茎を有する多年草という生態的な違いがある。今回、採集された個体では、地下茎は認められなかった。

また、ブタクサが偽果に刺状の突起を有するのに対して、ブタクサモドキではこぶ状の突起を有するとされている（門田ほか 2017）。しかしながら、今回の採集個体では雌性頭花が未成熟で、偽果の基部の形状を確認することはできなかった。

以上のことから、雄性頭花の外面に若干の軟毛が認められるものの、①茎葉は 1 ～ 2 回羽状に深裂する、②地下茎が認められず一年草と思われる、の 2 点の特徴を重視し、本個体はブタクサと同定した。

なお、北海道大学総合博物館陸上植物標本庫（**SAPS**）に収蔵されているブタクサの標本を検討したところ、茎葉の対生・互生については神奈川県植物誌調査会（2018）に記述されるとおりの個体が多いものの、羽状深裂については 1 回羽状深裂のみの茎葉を持つ個体も存在した（引用標本 *#K.Oita 01-6683*）。

ブタクサとブタクサモドキの記録

ブタクサは豊北海岸では初めての記録だが、道内の分布実態がどうなっているのかを把握するため、文献記録および北海道大学総合博物館（**SAPS**）、帯広百年記念館（**OCCM**）、釧路市立博物館（**KCCM**）に収蔵されているブタクサ属の標本を検討した。

ブタクサは北アメリカ原産のキク科の一年生草本である。久内（1950）によると、日本では 1880 年に内山富次郎が千葉県南部で採集し、東京大学の小石川植物園で栽培した個体の標本がもっとも古いとされる。

北海道を含む全国各地で定着が確認されている（滝田 2001，高橋 2003，太刀掛・中村 2007，松井 2015，五十嵐 2016，門田ほか 2017）。しかし、自然史標本データベイス「サイエンス・ミュージアムネット」によると、北海道でも十勝および道東での採集標本は少ない。十勝産標本はわずか 1 点で、帯広市の十勝川河畔で採集された標本が釧路市立博物館（**KCMH**）に 1 点収蔵されている（引用標本 *#KCMH 000899*）。ほかに道東産としては、同じく釧路市立博

図4　帯広市の十勝川河畔で採集されたブタクサの標本。*#KCMH 000899* (**KCMH**)

図5　釧路市の釧路西港で採集されたブタクサの標本。*#KCMH 000898* (**KCMH**)

物館に釧路西港産標本が収蔵されているのみである（引用標本 *KCMH 000898*）。なお、帯広百年記念館にもブタクサの所蔵はあるが、いずれも上川地方で採集された個体で十勝産の収蔵は無い。

ブタクサモドキは、ブタクサと同じく北アメリカ原産の外来植物である。日本では 1915 年に久内清孝が初めて神奈川県横浜市で採集している（久内 1942）。その後、1937 年にも宮代周輔がやはり神奈川県横浜市から採集しており，この標本が横浜市こども植物園に収蔵されている（神奈川県植物誌調査会 2018）。

北海道では、笈田一子が 2000 年に日高の門別町で採集しており、これが道内初記録とされる（五十嵐 2001）。標本は北海道大学総合博物館陸上植物標本庫（**SAPS**）に収蔵されている（引用標本 *#K.Oita 01-6196*）。なお、五十嵐（2016）は、笈田が確認した日高門別の自生地からは、既にブタクサモドキが消滅していることを報告している。

その後、文献で確認できるブタクサモドキの道内産地は無く、北海道ブルーリストでも日高門別のみを確認地点として掲載している。いっぽう、五十嵐（2016）、北海道ブルーリストともに、ブタクサは道内の多数の地域で野生化が報告されている。

しかし、ブタクサの形態の変異については情報が少なく、また、道内ではブタクサモドキの標本がほとんど存在せず、存在もほとんど認識されていない。したがって、従来、ブタクサと同定された標本のなかには、ブタクサモドキが紛れ込んでいる可能性がある。今後、各地の収蔵庫におけるブタクサと同定された標本の再同定調査が必要と思われる。

採集標本は、浦幌町立博物館収蔵庫（**URAH**）に収蔵した。標本の調査にあたり、北海道大学総合博物館の高橋英樹教授、帯広百年記念館の伊藤彩子学芸員、釧路市立博物館の加藤ゆき恵学芸員にご協力いただいた。深く感謝したい。

また、本標本は、浦幌町立博物館の月例調査観察会「豊北植物調査会」における定例調査観察会での記録である。筆者以外の当日の観察会参加者は以下のとおりであり、日頃からの調査協力に対して、記して謝意を表したい。大本眞理子、武藤多賀子、山本ひとみ、江﨑治子、池田守、池田順子（敬称略）.

引用標本

ブタクサ *Ambrosia artemisiifolia* L. (Asteraceae)

#MOCHIDA 2018-0003：北海道中川郡豊頃町トイトツキ（豊北海岸）．採集年月日：2018 年 9 月 1 日．採集者：持田誠、大本眞理子、武藤多賀子、山本ひとみ、江﨑治子、池田守、池田順子．Japan,Hokkaido; Nakagawa-gun, Toyokoro-cho, Toitokki, Toyokita Coast.　May.1,2018. Coll.: Makoto Mochida, Mariko Ohmoto, Takako Muto, Hitomi Yamamoto, Haruko Ezaki, Mamoru Ikeda & Junko Ikeda（**URAH**）

#K.Oita 01-6683：Japan, Hokkaido; Iburi-shicho, Mukawa-cho, Shiomi. Aug.26,2001. Coll.: K.Oita (**SAPS**) ／ *#KCMH 000899*：Hokkaido, Tokacho, Obihiro-shi, Waste Place in riverbed. alt.69m. Aug.16,1982. Coll.: K.Takita (**KCMH**) ／ *#KCMH 000898*：Hokkaido, West Port of Kushiro, Kushiro-chi Waste ground. alt.3m. Oct.3,1981. Coll.: K.Takita (**KCMH**)

ブタクサモドキ *Ambrosia psilostachya* DC.(Asteraceae)

#K.Oita 00-6196：Japan, Hokkaido; Hidaka-shicho, Monbetsu-cho, Tomikawa. Oct.5,2000. Coll.: K.Oita (**SAPS**)

標本庫略号：**URAH**：浦幌町立博物館／ **SAPS**：北海道大学総合博物館陸上植物標本庫／ **KCMH**：釧路市立博物館植物標本庫

引用文献

久内清孝，1942．採集余録（其の 13）．植物研究雑誌 17（9）: 548-549.

久内清孝，1950．帰化植物，227．科学図書出版社，東京.

五十嵐博，2001．北海道帰化植物便覧 2000 年版，106-107．北海道野生植物研究所，札幌.

五十嵐博，2016．北海道外来植物便覧 2015 年版，137-138．北海道大学出版会，札幌.

門田裕一・瀬戸口浩彰・副島顕子・東馬哲雄・中田政司・森田竜義・米倉浩司，2017．キク科．大橋広好・門田裕一・木原浩・邑田仁・米倉浩司編，改訂新版日本の野生植物 5，198-369．平凡社，東京.

神奈川県植物誌調査会，2018．神奈川県植物誌 2018．神奈川県植物誌調査会，小田原.

松井洋編，2015．北海道維管束植物目録，自費出版.

太刀掛優・中村慎吾，2007．改訂増補帰化植物便覧．比婆科学教育振興会，広島.

高橋秀男，2003．メナモミ連．清水建美編，日本の帰化植物，197-207．平凡社，東京.

滝田謙譲，2001．北海道植物図譜，911．自費出版.

校名	貯金総額	児童総数	貯金セル児童数
養老尋常小学校	一三八円六八	三二	三二

備考　児童一人平均貯金額　四円三三三　貯金セザル児童一名モナシ

㊞

大正十四年十二月三日

吉野尋常小學校長　埴淵　一

浦幌村長　石原　重方　殿

「受付印有」（紫スタンプ）

北海道十勝郡公立吉野尋常小學校長印

児童貯金額報告ノ件

題記ノ件左記ノ通リ御報告ニ及候也

記

學校名	貯金総額	児童総数	貯金セル児童数
吉野尋常小学校	三四六七六〇	六一	五三

大正十四年十二月一日發議　大正14年12月1日議決「拾四年十二月一日」發送　浄書㊞校合

村長　㊞　首席　合議　主任　發議者　㊞

番號　浦第　三五〇一　號　發信者　「村長」（加筆）

宛名　各小学校長　殿

件名　小学校児童貯金額調ノ件

調査上必要有之候趣ヲ以テ其筋ヨリ照會有之候条貴校児童貯金額左記ニ依リ御調査ノ上折返シ御回報相成度及照會候也

記

学校名	貯金総額	児童総数	貯金セル児童数
	円		

部第三九號　㊞

大正十四年十一月廿四日

産業組合十勝部會

「受付印有」（紫スタンプ）

産業組合中央會北海道支會十勝部會印

各町村長　殿

小学校児童貯金額調ノ件

調査上必要有之候ニ付貴部内各小学校児童貯金額（信用組合貯金ヲ除ク）ニ左記御取調ノ上十二月十日迄ニ御回報相煩度此段及御依頼候也

記

町村別　貯金額　児童一人當

注意　貯金部ハ可成最近ノモノヲ調査ノコト

浦幌村長　石原　重方　殿

小学校児童貯金額調報告ノ件

本校児童貯金現在高左記ノ通リ有之此段報告候也

記

学校名	貯金総額	児童総数	貯金セル児童数
川上尋常小学校	三七円六〇〇	六五	二一

大正十四年十二月四日

「受付印有」（紫スタンプ）

上常室尋常小学校　㊞

浦幌村長　石原　重方　殿

小学校児童貯金額調ノ件

浦第三五〇一號ヲ以テ御照會相成候右ノ件ニ付キ左記ノ通リ調査御報告候也

記

学校名	貯金総額	児童総数	貯金セル児童数
上常室尋常小学校	二二円〇〇〇	一七	一七

第三八號　㊞

大正十四年十二月五日

「受付印有」（紫スタンプ）

稲穂尋常小学校長　㊞

小学校児童貯金額調ノ件

大正十四年十二月一日附御照会ノ件別紙ノ通リ報告候也

記

学校名	貯金額	児童総数	貯金セル児童数
稲穂尋常小学校	六五、四五	四五	二六名

第二三号　大正十四年十二月四日

「受付印有」（紫スタンプ）

養老尋常小学校長　荒木　唯見

浦幌村長　石原　重方　殿

報　告

左記ノ通リ調査報告候也

北海道十勝郡公立養老尋常小學校長印

割印（欄外）

小學校児童貯金額調査

第三七号　㊞　㊞　「受付印有」（紫スタンプ）　㊞

大正十四年十二月四日　活平尋常小学校長　私松　貞松

浦幌村長　石原　重方　殿

北海道十勝郡公立活平尋常小學校長印

小学校児童貯金調ノ件

本月一日浦第三五〇一号御照会ノ件左記回報候也

記

学校名	貯金総額	児童総数	貯金セル児童数
活平尋常小学校	六〇 二〇〇	三九	三 三

第三九五號　「受付印有」（紫スタンプ）　㊞

大正十四年十二月五日　㊞　㊞

留真尋常小学校長　花見　八百三

浦幌村長　石原　重方　殿

北海道十勝郡公立留尋常小學校長印

小学校児童貯金額調之件

本月一日附浦第三五〇一號ヲ以テ御照会相成候首題ノ件左記ノ通リ調査及報告候也

記

学校名	貯金総額	児童総数	貯金セル児童数
留真尋常小学校	〔六〇四〕（削除） 七三九　四四五 六五五	〔九五〕（削除） 九五	〔七八〕（削除） 八　九

幾第七三號　㊞　「受付印有」（紫スタンプ）

大正十四年十二月五日　㊞

幾千世尋小学校長　千葉　諶之助

浦幌村長　石原　重方　殿

北海道十勝郡公立幾千世尋常小學校長印

小学校児童貯金調ノ件

浦第三五〇號御照会ノ本件左記ノ通リニ付此段及回答候也

記

学校名	貯金額	児童総数	貯金セル児童数	備考
幾千世	一〇三 八〇〇	九二	二 八	

㊞

大正十四年十一月三日

川上尋常小学校長　蓬田　新助　㊞

小學校児童貯金額調ノ件

本月一日附浦第三五〇一号ヲ以テ御照會ノ本件左記ノ通リ調査上報告候也

記

學校名	貯金総額	児童総数	貯金セル児童数	備考
浦幌尋常高等小学校	三五六六〇円 八七〇	三八二	二六八	

第七三号　㊞「受付印有」（紫スタンプ）　㊞

大正十四年十二月四日　貴老路尋常小学校長　小林　朔吉

浦幌村村長　石原　重方　殿

北海道十勝郡公立貴老路尋常高等小学校長印

小学校児童貯金額調ノ件

去ル一日附浦第三五〇一号ニテ御照會ノ本件左記及回答候也

記

學校名	貯金総額	児童総数	貯金セル児童数
貴老路尋常小学校	三三八、〇四	一一二	七一

割印（欄外）　第七一九號　㊞　㊞　「受付印有」（紫スタンプ）　㊞

大正十四年十二月五日

常室尋常小學校長　三野　経太郎

浦幌村長　石原　重方

北海道十勝郡公立常室尋常小學校長印

小學校児童貯金額調ノ件

本月二日付浦第三五〇一號ヲ以テ御照會有之候學校児童現在貯金額別表ノ通リニ有之候條此段及報告候也

記

学校名	貯金総額	児童総数	貯金セル児童数
常室小学校	九四八円 六八五	一六〇	一三八

第五一〇號　㊞　㊞　「受付印有」（紫スタンプ）　㊞

大正十四年十二月五日　十勝郡川流布尋常小学校長

浦幌村長　石原　重方

学校児童貯金高調査報告之件

本月一日付浦第三五〇一號御照会之件調査左記ノ通及報告候也

記

学校名	貯金総額	児童総数	貯金セル児童数
十勝郡川流布尋常小学校	一八四円 四六〇	五〇	三九

本年度後期貯金増減調査別表ノ通リニ有之候条及此段報告候也

第一号學校生徒貯金増減表　大正十四年十二月末現在

校名	貯金種類	貯金セル児童數	前期迄貯金現在高		本期貯金額		本期拂戻學		現在累計額		貯金スル児童一人平均額	
常室尋常小学校	郵便	一三八	八三一	二四五	一五一	六九〇	三四	二五〇	九四八	六八五	六	九一八

第二号學校職員貯金増減表　仝上

校名	貯金種類	貯金セル職員數	前期迄貯金現在高		本期貯金額		本期拂戻額		現在累計額		貯金スル職員一人平均額	
仝上		四	一二一	七〇五	二九	五〇			一五〇	七〇五	三七	六七六

第五一三號　㊞

大正十四年十二月廿八日　十勝郡川流布尋常小学校長

浦幌村長　石原　重方　殿

「受付印有」（紫スタンプ）

北海道十勝郡公立川流布尋常小學校長印

貯金増減表提出之件

大正十四年度第二期貯金増減表左記ノ通及報告候也

記

第一號表學校児童生徒貯金増減表　（大正十四年十二月末調）

校名	貯金種類	貯金セル児童數	前期迄貯金現在高		本期貯金額		本期拂戻學		現在累計額		貯金スル児童一人平均額	
川流布尋常小学校	郵便貯金	三八	八七円	〇二〇	九七円	三四〇			一八四円	三六〇	四円	八五二

第弐號表學校職員貯金増減表　（大正十四年十二月末調）

貯金種類	貯金セル職員數	前期迄貯金現在高		本期貯金額		本期拂戻學		現在累計額		貯金スル児童一人平均額	
小郵便貯金	二	一〇〇円	〇〇〇	一二円	〇〇〇		〇	一二円	〇〇〇	五六円	〇〇〇

㊞

小學校兒童貯金額調ノ件左記報告及候也

「受付印有」（紫スタンプ）

記　㊞

學校名	総額	兒童総數	貯金セル兒童數
上浦幌尋常高等小学校	八七六円七一〇	一六五	一二七

大正十四年十二月八日　上浦幌尋常高等小学學長　成田　順治

浦幌村長　石原　重方　殿

北海道十勝郡公立上浦幌尋常高等小學校長印

浦発第四五号　㊞

「受付印有」（紫スタンプ）　㊞

大正十四年十二月十二日

浦幌尋常高等小學校長　成田　惣八郎　㊞

浦幌村長　石原　重方　殿

割印（欄外）

北海道十勝郡公立浦幌尋常高等小學校長之印

第二号　学校教員貯金増減表

貯金種類	貯金セル教員数	前期マテ貯金現在数	本期貯金額	本期払戻學	現在累計額	貯金スル児童一人平均数
郵便貯金	一	七六円	一二円	—	八八円	八八円

第一號　学校生徒貯金増減表　（大正十四年十二月末現在）　㊞

「受付印有」（紫スタンプ）

校名	貯金種類	貯金セル児童数	前期迄貯金セル在高	本期貯金額	本期払戻學	現在累計額	貯金スル児童一人平均額
セタライ教授場	郵便	一二	一九	八〇〇	六	〇〇〇	—	—	二九	八〇〇	二	一五〇
備考												

第二號　ナシ

右報告候也

大正十五年一月五日　瀬多來特別教授場

代用教員　古林　繁越　㊞

浦幌村長　石原　重方　殿

第三九九號　「受付印有」（紫スタンプ）　㊞

大正十五年一月三日

留真尋常小学校長　花見　八百三

浦幌村長　石原　重方　殿

北海道十勝郡公立留真尋常小學校長印

貯金増減ニ關スル件

右ノ件ニ關シ別紙ノ通リ調査及報告候也

第一號學校生徒貯金増減表　（大正十四年十二月末現在）

校名	貯金種類	貯金セル児童数	前期迄貯金セル在高	本期貯金額	本期払戻學	現在累計額	貯金スル児童一人平均額
留真尋常小学校	郵便	八六	一七一	一三〇	一九九	六二〇	、	、	七七二	一九〇	八	九七九
												備考

第二号學校職員貯金増減表　（仝前）

貯金セル職員数	貯金スル職員一人平均額
仝	仝	仝	仝	仝	仝	仝	仝
仝	仝	二	、	、	、	、	三〇	〇〇〇	二、七	三〇	一〇八	六一〇
	備考

第七二二號　「受付印有」（紫スタンプ）　㊞

割印（欄外）

大正十五年一月六日

常室尋常小學校長　三野　経太郎

浦幌村長　石原　重方　殿

北海道十勝郡公立常室尋常小學校長印

貯金増減表ニ關スル件

私議本道小學校教員志望ニ付貴会第二十一回尋常小學校本科正教員養成講習会ニ入会致度別紙履歴書及戸籍抄本相添此段相願候也

大正十五年　月　日

「現住所」

氏　名　印

北海道聯合教育会幹事長　池田　繁治　殿

㊞　貯金増減ニ関スル件

本件ニ関シ左記ノ通リ調査仕リ候間此段及御報告候也

㊞

「受付印有」（紫スタンプ）

記

第一號表

上浦幌尋常高等小学校	貯金種類	貯金セル兒童	前期迄貯金現在数	本期拂戻額	現在累計額
	郵便貯金	一〇四	三九一、九六〇		八六七、九三〇

本期貯金額	貯金セル兒童一人平均額
四七五、八七〇	八、三四五

第二號表

貯金種類	貯金セル教員数	前期迄貯金現在	本期貯金額	現在累計額
郵便貯金	四	一六四，〇〇〇	三〇〇、〇〇〇	四六四、〇〇〇

本期拂戻額	貯金セル教員一人平均額
	一一四、〇〇〇

票決完（欄外）

大正十五年一月十四日

上浦幌尋常高等小学校長　成田　順治

浦幌村長　石原　重方　殿

枠は朱欄外

第（朱）一三（黒）號（朱）

完結票

村長㊞	首席㊞	主任㊞	施行濟	完結

北海道十勝郡公立上浦幌尋常高等小學校長印

㊞　「受付印有」（紫スタンプ）

第四〇号

大正十五年一月十日　活平尋常小学校長　小林　貞松

浦幌村長　石原　重方　殿

貯金増減表ニ干スル件

大正十四年下半期貯金増減表左記及報告候也

記

第一号　学校生徒貯金増減表

校名	貯金種類	貯金セル児童数	前期マテ貯金現在数	本期貯金額	本期払戻學	現在累計額	貯金スル児童一人平均数
活平尋常小學校	郵便貯金	三三	五七円五一	二円六九	—	六〇、二〇	一円八二四

北海道十勝郡公立活平尋常小學校長印

候規定ニ付添セテ周知セシメラレ度申添候也

第二十一回尋常小學校本科正教員養成常設講習会講習会(ママ)講習生募集要領

一、講習会場　札幌師範學校及函館師範學校

二、講習期間　自大正十五年四月至大正十六年三月一ヶ年

三、収容人員　凡八十名（札幌、函館各凡四十名）

四、選抜方法　八十名ノ内半數ハ支廳長市長ノ推薦ニ基キ無試験ニテ選抜シ他ノ半數ハ一般ヨリ募集ス

五、講習資格（イ）一般志願者　志操堅實、身體強健、品行方正ノ男女ニシテ尋常小學校准教員資格ヲ有シ又ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者ニシテ選抜試験ニ合格シタル者

（ロ）推薦ニ依ル者　現ニ本道小學校ノ教職ニ在ル男子ニシテ支廳長市長ノ推薦ニ依リ本会ノ選抜シタル者

六、出願期限　一般志願者ニ在リテハ別記ノ入会願書ニ履歴書及戸籍抄本ヲ添ヘ大正十五年二月十五日迄ニ札幌市時計臺内本会事務所ニ到達スル様差出スコト（受験地朱書ノコト）

七、選抜試験　一般志願者ニ対スル選抜試験ハ筆答試験、口頭試験及身體検査トシ筆答試験ハ国語算術ノ二科目ニ就キ左ノ日時割ニ依リ札幌、函館両師範學校各支廳（石狩、渡島両支廳ヲ除ク）ニ於テ之ヲ行フ

自午前八時至同十時　二時間　算術

三月十日　自午前十時十分至午后零時十分二時間　国語（解釈）

自後后一時至同三時　二時間　国語（作文）

八、入会ノ許否　口頭試験及身體検査ハ筆答試験合格者ニ就キ之ヲ行フ

支廳長、市長ノ推薦アリタル者ニ対スル入会ノ許否及一般志願者ニシテ筆答試験ニ合格シタル者ニハ書面ヲ以テ之ヲ通知ス

支廳長、市長ノ推薦アリタルモノニシテ本会ノ選抜ニ漏レタル者ハ一般志願者トシテ第七項ニ掲クル選抜試験ヲ受クル事ヲ得此ノ場合ハ別ニ入会願書ノ提出ヲ要セス

九、學費補助　講習生ニハ學資補助トシテ講習期間中（八月ヲ除ク）一箇月ニ付金五円以上ヲ本会ヨリ支給シ講習料ハ之ヲ徴収セス

一〇、入學後ノ心得　入学ヲ許可セラレタル者ハ二週間以内ニ本会ノ適当ト認ムル身元保証人ヲ定メ連署ノ上誓約書ヲ差出ス外凡テ本会ノ指揮ニ従フヘシ

一一、受験者心得（イ）一般志願者ハ選抜試験開始時刻前ニ願書記載ノ受験場ニ出頭シテ指揮ヲ受クヘシ

（ロ）受験者ハ半紙白紙、罫紙ピン、鉛筆ヲ携帯シ洋服又ハ袴ヲ着用スヘシ

（ハ）受験者ハ凡テ監督者ノ指揮ニ従ヘシ

入　會　願　書

入　会　会　場　第一希望　何師範學校

第二希望　何師範學校

選　抜　試　験　場　何支廳（何師範學校）

記入上ノ注意
一、奉置所建築シタルモノハ其ノ竣工　年　月　日
一、目下建築中ノモノハ認可年月日竣工見込年月日見込年月日並ニ竣工迄ノ措置方法
方法

大正十五年一月一四日發議　大正　〃年　〃月　〃日議決「大正壱拾五年壹月拾四日」發送（紫スタンプ）　浄書㊞校合㊞

村長㊞　首席　合議　主任　發議者㊞
番號　浦第　一一七　號　發信者　浦幌村長
宛名　浦幌、上浦幌、常室、上常室、留真、幾千世各小学校長宛
件名　第二十一回尋常小学校本科正教員養成講習会講習生募集ノ件

完（欄外）

票結

北海道聯合教育会主催ニ係ル尋常小学校本科正教員養成常設講習会別紙要領ニ依リ開催ノ見込ノ趣ヲ以テ講習生募集方依頼越候条精々御勧誘相成度尚現職准代用教員教員ニシテ「応募（加筆）セントスル者ハ」募集要領第四項ニヨリ推薦願ニ履歴書及戸籍抄本ヲ添ヘ在職小学校長ノ承認ヲ經二月五日限リ河西支廳ニ到着スル様提出セシメラレ度候也

追テ推薦人員ハ別紙要領第四項ノ如ク全道ニ於テ四十名ニ有之候ニ付支廳ニ於テ推薦スルモ之カ選抜ニ漏ルヽコト有之之カ選抜ニ漏レタルモノハ要領第八項ニヨリ別ニ入会手続ヲ要セス一般志願者トシテ要領第七項ニ掲ケタル選抜試験ヲ受クルコトヲ得候規定ニ付申添候也

枠は朱欄外

第（朱）一一一（黒）號（朱）

完結票

村長㊞	施行濟
首席㊞	完結
主任㊞	

特急（欄外朱筆）

教第一九號　㊞　「受付印有」（紫スタンプ）
㊞

大正十五年一月十一日

河西支廳　那須　正夫

各町村長殿

第二十一回尋常小學校本科正教員養成講習会講習生募集ノ件

北海道聯合教育会主催ニ係ル尋常小学校本科正教員養成常設講習会別紙要領別紙要領ニ依リ開催ノ見込ヲ以テ之カ講習生募集ニ付依頼越ノ次第モ有之候処貴部内教員配置ノ状況ニ鑑ミ此ノ際精々御勧誘多数応募致ス様特ニ御配慮相煩シ度

尚現職准代用教員ニシテ募集要領第四項ニヨリ推薦願ニ履歴書及戸籍抄本ヲ添ヘ在職小學校長承認ヲ経二月五日限リ當廳ニ到着スル様周知セシメラレ度

追而全道ニ於テ推薦人員ハ別紙要領第四項ノ如ク四十名ニ有之候ニ付當廳ニ於テ推薦スルトモ之カ選抜ニ漏ルルコト有之之カ選抜ニ漏レタルモノハ要領第八項ニヨリ別ニ入会手続ヲ要セス一般志願者ト見做シ要領第七項ニ掲ケラル、選抜試験ヲ受クルコトヲ得

水産講習會ニ干スル件

北海道水産会計画ニ係ル小学校教員ヲ講習生トスル水産講習会ハ明十五年度ニ於テモ左記要領ニ依リ実施ノ見込ニ有之旨申越候条十四年度施行ノ成績ニ鑑ミ講習生ノ旅費其他ニ関シ市町村予算編成等ノ都合モ可有之被察候得共貴職ニ於テモ多数出席方御勧誘被下多数講習生ヲ派遣セラル、様御尽被下度此段及御依頼候

敬具

記

一、期　間　大正十五年八月中　二週間
一、場　所　本会事務所
一、講習科目　漁撈、製造、養殖ニ関スル大意及教科書中水産事項ノ解説其他
一、講　師　北海道帝國大学水産専門部教授及道廳職員其他

大正十五年一月一四日發議　大正　〃年　〃月　七日議決（紫スタンプ）「大正壱拾五年壹月拾四日」發送　浄書㊞校合㊞

村長㊞　首席㊞　合議　主任　發議者㊞

番號　浦第　一三一　號　發信者　浦幌村長

宛　名　河西支廳長　宛

件　名　御真影拝戴ニ干スル件

完（欄外）

結　票

本月十二日付教第三二號ヲ以テ標記ノ件御通牒有之候處奉衛上ノ設備整ハス乍遺憾今回ハ有戴スルコト能ハス候条御了知相成度及御回答候也

枠は朱欄外

第（朱）一一（黒9）號（朱）

完結票

村長	㊞
首席	㊞
主任	㊞
施行濟	
完結	

教第三二號　㊞

大正十五年一月十二日

「受付印有」（紫スタンプ）　㊞

河西支廳長　那須　正夫

各　町　村　長　殿

御真影拝戴ニ関スル件

貴部内公立小學校中未ダ御真影ヲ拝戴セサル學校ニシテ奉衛上ノ設備整ヒ紀元節迄ニ拝戴希望ノモノ有之候ハ、左記事項ヲ具シ本月二十日迄ニ当廳ニ到達候様内申相成度尚右期日経過後到着ノ分ニ対シテハ今回ハ詮議不相成候旨其ノ筋ヨリノ通牒ノ次第モ有之候条豫メ御了知ノ上右期日迄ニ相違ナク当廳ニ到着候様内申相成度此段及通牒候也

追テ該期日迄ニ内申無之場合ハ希望ナキモノトシテ処理可致候条御承知相成度申添ヘ候

記

町村名	學校名	奉衛上ノ設備ノ状況

目　録〔全体の目録は紀要第16号に掲載〕

番號	件名
一〇	水産講習会ニ干スル件
一一	御真影拝戴ニ干スル件
一二	教員養成講習会ニ關スル件
一三	貯金増減ニ關スル件

決（欄外）　「浦第一三四號」（朱で加筆）決裁

教第二三六九號

「大正十五年一月十四日」（朱で加筆）

裁　大正十四年十二月廿五日

印　「浦幌村長」（朱で加筆）

「移牒可然」（欄外加筆）　河西支廳長　那須　正夫

完（欄外）　「各小学校長」（朱で加筆）

決　各町村長　殿

票

水産講習会ニ干スル件

北海道水産会ニ於テ左記要領ニヨリ水産講習会開催ノ見込ヲ以テ学校職員等多数聴講セシメラル、様依頼越候条就テハ「貴部内学校」（朱線有）職員、右周知方可然御配慮相成度

追テ開催期日決定ノ上ハ更ニ通知可致

記

一、期　日　大正十五年八月中　十日乃至二週間

「北海道水産会」（朱加筆）

一、場　所　札幌市北三条西七丁目（本会）事務所

一、講習科目　漁撈、養殖、製造ニ關スル大意及国定教科目中水産事項ノ解説其他

一、講習生資格　小学校教職員

一、講習豫定　北海道定国大学水産専門部教授及北海道廳員

決裁印

村長	首席	合議	主任
㊞	㊞		㊞

完結票

村長	㊞
首席	㊞
主任	㊞
施行	濟
完結	

枠は朱欄外

第一〇號（朱）（黒）（朱）

十水第一〇號　㊞

大正十五年二月五日　㊞

「受付印有」（紫スタンプ）

各町村長　殿

十勝水産會長

浦幌町立博物館紀要　第19号　2019年3月

資料紹介

大正十五年 昭和元年 教育雑件〔その四〕

浦幌村役場

三浦 直春・大和田 努 解読

本報は、浦幌町立博物館所蔵の「大正十五年　昭和元年　教育雑件」（浦幌村役場）簿冊に綴られた各文書を翻刻したものである（図1）。各文書の内容については、冒頭に目録が綴られており、紀要第16号（2016年発行）に掲載してある。本号には目録の文書番号一〇から一三までを掲載した。

各文書については、紀要に文書毎に分割して掲載している。なお、掲載の順序は、原則として「教育雑件」に綴られている順序とする。

翻刻は、浦幌町立博物館ボランティアの三浦直春が担当してきたが、三浦が2018年に逝去したため、帯広百年記念館学芸員の大和田努が引き継いだ。

※原資料は浦幌町立博物館で収蔵していますが、資料の劣化防止などのため、展示公開はしていません。調査・研究上の理由で必要な場合には、所定の手続きにより閲覧する事が可能です。原資料の閲覧が必要な場合は、博物館までお問合せ下さい。

〔浦幌町立博物館学芸員〕

図1　大正十五年　昭和元年　教育雑件（浦幌村役場）

投稿要領・執筆要領

浦幌町立博物館では、『浦幌町立博物館紀要』への投稿者を募っています。投稿範囲は、浦幌・十勝並びに北海道を含む北方圏に関する論文、短報、資料紹介、新産地情報、調査・観察記録などです。

投稿は随時受け付けておりますので、投稿希望の方は、当館へご連絡下さい。

投稿者への別刷りは、50 部までは無料です。それ以上の印刷については著者負担とします。

なお、投稿原稿は紀要に掲載後、インターネット上で全文を公開します。投稿にあたっては、公衆送信権を含む著作権を当館に帰属して頂きます。

執筆にあたっては、以下の投稿要領・執筆要領を参照の上、原稿を作成ください。

1　投稿要領

＜提出方法＞

原稿は手書きまたはパソコンで受け付けます。投稿の際は、別紙に氏名・タイトル・連絡先を明記して下さい。

手書き原稿の場合は、縦書き・横書きのいずれも 400 字詰め原稿用紙を使用して下さい。

パソコン原稿の場合は、テキスト形式もしくは MS-Word 形式で保存したデータを、打ち出し原稿と共にお送り下さい。

データでの提出は、USB メモリもしくは CD-R で送付下さい。電子メールでの提出にあたっては、投稿用のメールアドレスを別途指示しますので、事前にご連絡ください（博物館の代表アドレスでは受け取れませんのでご注意ください。）

原稿は「紀要原稿在中」と赤書きの上、下記の浦幌町立博物館宛に提出ください。

〒 089-5614
北海道十勝郡浦幌町字桜町 16-1　浦幌町立博物館
電話：015-576-2009

2　執筆要領

＜言語＞

本文は和文に限ります。ただし、タイトル、氏名、所属には英語表記を御用意ください。また、英文アブストラクトを付ける事もできます。

学名、欧文用語および数字は半角文字で記し、句読点はそれぞれテン全角（、）および全角マル（。）とします。

＜引用文献＞

文献は、原則として本文中に引用した文献のみをとりあげ、和文、欧文を含めて著者名のアルファベット順に配列して下さい。

本文中での引用は（持田・加藤 2001a; 持田 2002）、持田ほか（2001）、(Mochida & Kato 1995, 2001b, c)、Mochida et al. (1997) を原則とします。なお、縦書きの場合は、原則として漢数字で表記下さい。

（例）持田誠（二〇一五 a）

下記の表記例を参考にして下さい。

a．論文の場合は、著者名．発行年．表題．掲載雑誌名 巻（号）：ページ．と表記する。

（例）上赤博文．1995．田手川の植物群落と植物相．佐賀自然史研究 1(1)：5-16.

b．単行本の場合は、著者名．発行年．書名．ページ数．発行所，発行地．と表記する。

(例)伊藤秀三．1994．島の植物誌．246pp．講談社, 東京.

c．単行本（分担執筆）の一部を引用する場合は, 著者名．発行年．章名．本の編者名，書名．章のページ．発行所，発行地．とする。

（例）長田芳和．1997．ニッポンバラタナゴ．長田芳和・細谷和海（編），日本の希少淡水魚の現状と系統保存―よみがえれ日本産淡水魚―．pp.76 – 85．緑書房，東京.

＜脚注＞

脚注は本文末にまとめて記述します。表記は（註 1）の形式とします。本文中では下記のとおり表記して下さい。

（例）・・・と考えられている（註 1）。

＜図表と説明文＞

図表番号は写真も含めて図 1、表 1 とします。

図版、写真、表は、本文へ貼り付けず、1 点ずつ別途お送り下さい。また、図版データは JPG で、表データはエクセルの形式で提出願います。

図は図表、図版とも完全原稿とし、余白または裏に著者名，番号，天地を明記して下さい。また、本文の打ち出し原稿の右余白に図の挿入位置を書き込んで下さい。ただし図版の説明文（キャプション）は図版にはめこまず、図表番号と説明文を別紙 A4 用紙に記入して下さい。図表の説明文には英文を併記することができます。

（2016 年 3 月制定）

浦幌町立博物館紀要　第19号

ISSN 2189-4787

発　行　日　　2019年3月31日

編集・発行　　浦幌町立博物館
〒089-5614　北海道十勝郡浦幌町字桜町16番地１
電話　015-576-2009　　FAX. 015-576-2452

印　刷　所　　大同出版紙業株式会社
〒080-0017　北海道帯広市西７条南６丁目２番地
電話　0155-23-5107　　FAX. 0155-23-9032